

こ う ほ う おのみち

Onomichi City 平成30年(2018)

No.1039
4月号



Onomichi Inland Sea of Japan.

景全街市道尾後備

尾道市制施行120周年記念行事シンボルマーク



コンセプト

市の花・木である桜の花をモチーフにしたマークです。

5枚の花びらは2市3町(尾道市、因島市、御調町、向島町、瀬戸田町)が集まって1つの街になったことを表しています。

尾道市が歩んできた歴史をリボンで包み込んでいるイメージで制作しました。

また、波型を用いたマークは、尾道市の大きな魅力である「しまなみ」や「やまなみ」、「まちなみ」を表現しています。

特集 尾道市制施行120周年



尾道市制施行120周年



尾道市長
平谷 祐宏

尾道市は、明治31年4月1日に県内で2番目に市制を施行し、120年という長い歴史の中で、市民とともに少しずつまちの魅力を高めながら歩んできました。

これまでに隣接町村との8回に及ぶ合併、そして平成17年には御調町及び向島町と、平成18年には因島市及び瀬戸田町との合併を経て、それぞれの歴史・文化・地域の魅力がひとつになり、全国的に注目を集める尾道市となっています。

本年は、6月に全日本花いっぱい尾道大会、10月に国際サイクリング大会、11月に北前船寄港地フォーラムを開催するなど、国内外から多くのお客様をお招きする年となります。

先人が積み上げてこられた財産を活かしながら、記念すべきこの年が市民の皆様とともにさらなる飛躍と発展の年となるよう全力で取り組んでまいります。

市制施行120周年を記念して、様々なイベントが開催されます！
(4月～6月までのイベントを紹介します。)

日程	イベント名	会場
3月17日～4月15日	第12回おのみち俳句まつり	千光寺公園
3月17日～5月6日	浮世絵づくし にゃんとも猫だらけ	尾道市立美術館
3月31日～4月18日	第28回尾道工芸展・矢形彫刻展	千光寺公園かおり館
4月1日	第9回いんのしまさくら祭	ホテルいんのしま前広場
4月1日～15日	花いっぱい尾道大会 シトラスパーク臨時開園	シトラスパーク瀬戸田
4月7日	第35回さくら茶会	尾道駅前港湾緑地帯
4月8日	みつぎ桜まつり	圓鑄勝三彫刻美術館
4月8日	第9回せとだ桜まつり	瀬戸田サンセットビーチ (しまなみレモンビーチ)
4月15日～5月27日	除虫菊祭	因島フラワーセンター フラワー会館
4月20日～23日	2018年春このよき季節を装う 尾道各流いけばな展	しまなみ交流館
4月22日	浄土寺 大茶の湯	浄土寺
4月28日～29日	第75回尾道みなと祭	尾道駅前港湾緑地 ほか
4月28日～5月27日	台湾 国立嘉義大学との交流展	尾道市立大学美術館
5月2日～5日	第6回しまなみ音楽祭/ 5月の尾道音楽学校	市民センターむかいしま
5月3日～4日	因島アメニティ公園まつり	因島アメニティ公園、 しまなみビーチ
5月6日	音楽と風景・街角コンサート&ライブ	尾道市商店街・商業会議所記念 広場・ゆとりの広場など
5月12日	第27回尾道薪能	浄土寺阿弥陀堂
5月12日～13日	おのみち因島除虫菊まつり2018	因島フラワーセンター 芝生広場 ほか
5月27日	広響しまなみコンサート	ベル・カントホール
6月2日	尾道市制施行120周年記念式典	しまなみ交流館
6月2日～3日	第58回全日本花いっぱい尾道大会	しまなみ交流館 ほか
6月中旬～7月の土曜日	本通り商店街の土曜夜店	本通り商店街
6月24日	あじさいき	林芙美子像前 ほか

歴史と伝統を持つ尾道市は、市制施行120周年という記念すべき年を迎えました。

平成27年度に「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」として、平成28年度には今治市と共同で「“日本最大の海賊”の本拠地：芸予諸島一よみがえる村上海賊の記憶―」のストーリーが日本遺産に認定されています。

また去年は、トワイライトエクスプレス「瑞風」の尾道駅停車、豪華客船「ガンツウ」の就航など、多くの方に訪れていただきました。

この記念すべき年を市民の皆様とともに祝い、これまで培ってきた尾道市の魅力を再発見するとともに、より一層の市勢発展に向けて、議員一同、全力で取り組んでまいります。



尾道市議会議長
吉田 尚徳

名誉市民(歴史ある尾道を築いてこられた先人たちを紹介します)

- ・平山 角左衛門(ひらやま かくさえもん) 尾道町奉行となり、住吉浜を完成させ、尾道の港勢発展の基礎を築きました。
- ・本因坊 秀策(ほんいんぼう しゅうさく) 優れた棋力と人格により「碁聖」と崇められており、「御城碁」では19連勝(無敗)の偉業を成し遂げました。
- ・三木 半左衛門(みき はんざえもん) 尾道の景色が見渡せる千光寺山中腹に共楽園(のちの千光寺公園)を開きました。
- ・山口 玄洞(やまぐち げんどう) 多額の寄付により、尾道市の上水道工事が進められ、現在の上水道の基となりました。
- ・久保田 権四朗(くぼた ごんしろう) 久保田鉄工所(現クボタ)の創業者で、私財を投じて因島内の道路や施設建設を援助しました。
- ・小林 和作(こばやし わさく) 独自の風景画風を築き、尾道市の美術振興と文化の発展に貢献しました。
- ・耕三寺 耕三(こうさんじ こうそう) 昭和2年に東洋径大鉄鋼管製造所を設立し、耕三寺を建立しました。
- ・圓鐔 勝三(えんつば かつそう) 「愛」と「平和」を追求した圓鐔芸術を確立した彫刻家です。昭和63年度に文化勲章を受章しました。
- ・宮地 茂(みやち しげる) 文部省退職後、福山大学を設立し、初代学長に就任しました。
- ・平山 郁夫(ひらやま いくお) シルクロードを題材にした作品が有名な日本を代表する日本画家です。平成10年度に文化勲章を受章しました。

尾道のあゆみ

- 1889年(明治22年) 町制施行し尾道町となる
- 1891年(明治24年) 山陽鉄道福山～尾道間開通(尾道駅開業)
- 1892年(明治25年) 山陽鉄道尾道～糸崎間開通
- 1894年(明治27年) 三木半左衛門らが千光寺山に共楽園(のちの千光寺公園)を開く
- 1898年(明治31年) 広島県で2番目に市制施行する
- 1915年(大正4年) 広島県内で最初に市立図書館を開館する
- 1925年(大正14年) 尾道鉄道開通
- 1935年(昭和10年) 第1回尾道みなと祭開催
- 1937年(昭和12年) 御調郡栗原町、吉和村と合併
- 1939年(昭和14年) 沼隈郡山波村と合併
- 1950年(昭和25年) 尾道短期大学を開学
- 1951年(昭和26年) 御調郡深田村大字久山田と合併
- 1954年(昭和29年) 御調郡美ノ郷村、木ノ庄村、原田村と合併
- 1955年(昭和30年) 沼隈郡高須村、西村(現西藤町)と合併
沼隈郡百島村と合併
- 1957年(昭和32年) 沼隈郡浦崎村と合併
千光寺山ロープウェイ開通
- 1968年(昭和43年) 尾道大橋開通
- 1970年(昭和45年) 御調郡向東町と合併
- 1972年(昭和47年) 尾道バイパス全線開通
- 1983年(昭和58年) 因島大橋開通
- 1988年(昭和63年) 新幹線新尾道駅開業
- 1991年(平成3年) 生口橋開通
- 1999年(平成11年) 瀬戸内しまなみ海道全橋開通
- 2005年(平成17年) 御調町、向島町と合併
- 2006年(平成18年) 因島市、瀬戸田町と合併
- 2015年(平成27年) 中国やまなみ街道全線開通
「尾水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」が日本遺産認定
- 2016年(平成28年) 「日本最大の海賊」の本拠地:芸予諸島一よみがえる村上海賊の記憶―
が日本遺産認定



↓ 明治の尾道



昭和の尾道(昭和30年頃) ↑



↑ 広島県立尾道商業高等学校(創立130年)
明治21年、尾道商業学校として久保町に開校、その後
明治25年長江町へ、昭和14年吉和町へ移転
(写真は昭和14年吉和町へ新築移転した時のもの)



尾水道(昭和30年頃) ↑

瀬戸田

町村制施行により瀬戸田町・沢村が合併して瀬戸田町となり、同時に垂水村・福田村が合併して西生口村に、林村・中野村・鹿田原村が合併して北生口村に、御寺村・宮原村・荻村が合併して南生口村となり、名荷村、高根島村とともに豊田郡に属しました。

昭和12年西生口村と合併、さらに昭和19年北生口村・名荷村・高根島村の3カ村と合併、ついで昭和30年南生口村と合併し、現在の瀬戸田町になりました。

芸予諸島の美しい島々の中央部に位置する瀬戸田町は、瀬戸内の温暖な気候を生かした全国有数のかんきつ類の生産地であり、また歴史ある神社・仏閣が多く、文化の薫る町として早くから芸術鑑賞や音楽鑑賞などの文化事業に取り組んでいます。

平成11年瀬戸内しまなみ海道の全橋が開通し、島の特色を活かしながら、広く世界につながる文化と芸術の拠点づくりを進めてきました。



↑ 安芸国瀬戸田全景



耕三寺全景 ↑

御調

御調町域には明治22年、当時いずれも御調郡に属する菅野村・上川辺村・市村・河内村・今津野村・奥村・諸田村の7カ村がありました。昭和25年、市村が木ノ庄村の一部(江田・国守)を編入しました。

昭和30年に菅野村・上川辺村・市村・河内村・今津野村・奥村と諸田村の一部(大字下山田・大山田・千堂)が合併して、現在の御調町となりました。

御調町は山陰・山陽を結ぶ石見路に面しており、古代は府中から安芸真良へ通ずる山陽道の官道として駅もあったといわれ、交通の要衝として早くから開けていました。

また、昭和49年から公立みつぎ総合病院を中心とした「寝たきりゼロ作戦」等、地域包括ケアシステム構築に取り組む、地域包括ケア発祥の地でもあります。

↑尾道駅前通り
(昭和25年)

尾道名勝
「国鉄尾道駅」
←

串柿づくり
(昭和30年頃)
「御調町閉町記念誌より」
→



↑尾道鉄道で遠足へ(昭和32年)

向島

町村制施行により御調郡向島西村となり、昭和25年に町制施行の際改称して、向島町となりました。昭和29年岩子島村を編入し、昭和30年長寿村として知られた立花村を編入しました。

古くは、歌島・歌島郷といわれていましたが、次第に「向いの島」「向島」といわれるようになりました。

明治39年松場鉄工所が最初に起業したのち数社ができ、造船業が盛んになっていきました。

尾道との間の交通手段として「渡船」があり、土堂渡し場と向島の兼吉をつなぐ、通称「兼吉渡し」を始め、最大で12カ所まで増えました。

瀬戸内の気候と、島の殆どが丘陵地で平地が少ない特性から、かんきつ類の栽培が行われています。また洋ランやシクラメンの栽培も盛んで、向島洋ラン組合が第17回日本農業賞の広島県知事賞を受賞し、平成7年には向島洋らんセンターを開設しました。



↑兼吉栈橋(昭和37年)



←日立造船向島西工場での大元丸進水式
(昭和29年)

因島

町村制施行当時の因島は、土生村・田熊村・三庄村・中庄村・大浜村・重井村・三浦村の7カ村、海を隔てた生口島に、東生口村がありました。

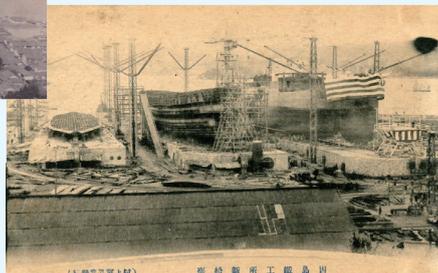
大正7年に土生村が町制施行で土生町となり、大正10年三庄村が三庄町となりました。

昭和23年には三浦村のうち大字椋浦が三庄町に、外浦・鏡浦が中庄村に編入、昭和24年田熊村が町制施行で田熊町となりました。昭和28年これらの3町4村が合併して因島市が発足しました。

瀬戸内の温暖な気候と多島美の豊かな自然に恵まれた因島は、かんきつをはじめ花木の栽培などが盛んなうえ、古くは、村上水軍の本拠地として栄えたことから、「水軍と花とフルーツの島」のまちづくりを行っています。また、基督本因坊秀策の生誕地でもあることから、「因島のまちいんのしま」のまちづくりに取り組んでいます。



因島土生町全景↑



因島鉄工所新船台(村上写真館発行)→



みなと祭の様子(昭和30年)↑



駅前魚市場の様子(昭和40年)↑

写真提供:尾道学研究会